

Report

施設公開・親子環境講座

当所の施設公開と親子環境講座を、夏休み期間に合わせて7月27日(土)に、安茂里庁舎と飯綱庁舎それぞれで開催しました。飯綱庁舎には子どもと大人あわせて47名の方にお越しいただき、長野県や飯綱高原の自然、当所の取り組みなどについて楽しみながら学びました。

親子環境講座「飯綱の森はなにいろ? ~草木染と植物観察」

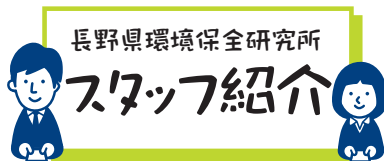
自然生態園に生えている植物を使って草木染を体験しました。もとの葉っぱはどれも同じような緑色をしているのに、染め上がった布はオレンジ色や黄色などいろいろな色に変わっていました。これは植物の種類によって、もっている色素が違うためですが、「葉の色と違って面白い!」「サクラの色が渋い!」との声があがっていました。森は「みどり」という固定観念が崩れ落ちてしまいました。

つくってみようコーナー

今年は例年大人気の「むささびグライダー(熊谷さとし氏考案)」のほか、折り紙(恐竜など)、羊毛工作、オリジナル缶バッジを作りました。むささびは哺乳類なのになぜ飛ぶのか? その疑問とは無関係に大人も子どもも試行錯誤を繰り返しながら飛距離を競っていました。新登場の羊毛工作では草木で染色した色とりどりの羊毛を使いました。

その他、動物のはく製や標本、研究成果の解説などを通じて、長野県の自然環境や気候変動の問題について考えていただくきっかけになったのではないかと思います。飯綱庁舎の展示は平日はいつでもごらんいただけますので、ぜひお越しいただければと思います。

(畑中 健一郎/自然環境部)



2024年4月に環境教育担当として着任しました。出身は長野市で、武田信玄と上杉謙信が一騎打ちをした川中島古戦場の近くで、リンゴ畑に囲まれて育ちました。大学時代を奈良で、大学院時代を横浜で過ごした後、山梨、神奈川、北海道、茨城、香川と、各地の大学や公的研究機関で働き、この4月に長野に戻ってきました。専門は景観生態学で、これまで主に里山をはじめとする人の影響がある中で成立してきた自然を対象に研究をしてきました。「人がいる自然」の成り立ちを知ることで、人と自然が共に暮らすヒントが得られるのではないかとこの思いで研究に取り組んでいます。



「人間は自然界の中では邪魔者でしかないのだろうか」という思いが、私が生態学者を目指したきっかけです。「環境問題」を知った小学生の私は、自分が環境に悪影響を与える「人間」であることに負い目を感じ、「大きくなったら、他の生きものと一緒に暮らせる世界を創る!」という目標を持ちました。私は、今もこの思いを胸に、研究に取り組んでいます。

生物学的な視点で「自然」の成り立ちや特徴を明らかにし、社会的な視点でそこに価値を感じ、それを維持するために行動したいと感じる人の想いの醸成に取り組むことで、子供のころ描いた目標「人と自然が共に暮らせる社会」を、故郷長野から実現させていきたいと考えています。

(小林 慶子/自然環境部)